

「どうですか」と「どんな～ですか」の意味記述

久池井 紀 子

0. はじめに

「どうですか」と「どんな～ですか」は文中での文法的な機能は異なるが、意味的には同じような答を要求する場合がある。

(1) 田中先生の講義はどうですか。

(2) 田中先生の講義はどんな講義ですか。

(1)の答として(3)が、また(2)の答として(4)が通常可能である<注>。

(3) むずかしいですが、ためになります。

(4) むずかしいですが、ためになる講義です。

また、(5)(6)のような例も挙げられる。

(5) 閉会の挨拶は、どうでしたか。

(6) 閉会の挨拶は、どんな挨拶でしたか

(5)(6)の答としては(7)のようなものが考えられる。

(7) お陰様で盛会だったと感謝の意を述べた挨拶で、感じが良かったです。

これら「どうですか」「どんな～ですか」の例はどれも、話題になっている事柄に対する印象や様子などを問う疑問詞として使用されている。本稿ではこれらの意味記述を試みる。(以下「どう」「どんな」と略す。)

1. 印象、様子を問う

1. 1. 話題についての話し手の知識の有無

「どう」は話題になっている事柄について、話し手が知識を持っていたいなくても使用することができる。それに対して、「どんな」は話し手が自分では知識を持っていない事柄についてのみ使用することができる。

たとえば、日本語の授業の様子を知らないアパートの大家さんが、留学生に(8)(9)のように問うことには問題がない。

(8) 日本語の授業はどうですか。

(9) 日本語の授業はどんな授業ですか。

しかし、日本語教師が自分のクラスの学習者に問う場合は事情が異なる。

(10) 日本語の授業はどうですか。((8)として既出)

(11)×日本語の授業はどんな授業ですか。

アパートの大家さんも日本語教師も「どう」を使用して問うことができることから、「どう」は授業の様子を知っているかどうかに関わらず使用できることがわかる。しかし、授業の様子を知っている日本語教師は、(11)のように問うことはできないのである。

また、自分の部屋について友だちに問う場合も、「どう」を使って問う(12)は適格であるが「どんな」を使って問う(13)は不適格である。自分の今住んでいる部屋の様子についていちばんよく知っているのは、他ならぬ自分であるからである。

(12) わたしが今住んでいる部屋はどうですか。

(13) ×わたしが今住んでいる部屋はどんな部屋ですか。

ただし、同じ対象物でも人によってその存在価値は異なるため、話し手の知識の有無に関わらず聞き手に存在価値を問うことは自然である。(12)(13)に「あなたにとって」を挿入すると、文が存在価値を問う文になり(14)(15)のように適格となる。(14)は(12)と比較すると、聞き手の印象を問う話し手の意図がより明確になっている。

(14) わたしが今住んでいる部屋はあなたにとってどうですか。

(15) わたしが今住んでいる部屋はあなたにとってどんな部屋ですか。

同様の例が(16)(17)である。となりのうちの人に(17)を問うのは、母親が自分の娘について知らないように聞こえて奇妙である。(17)が適格となる状況というのは、たとえば事情があって長い間娘と離れて暮らしていた母親が、近く娘と対面をしようとしている場合である。

(16) 娘はどうですか。

(17) ?娘はどんな子供ですか。

しかし、通常学校での娘の様子については母親よりも担任の先生のほうがよく知っているので、「学校では」を挿入した(18)(19)は適格である。

(18) 娘は学校ではどうですか。

(19) 娘は学校ではどんな子供ですか。

「どう」を使って問う(16)は、何も断らなくても自分がそれについて知っているかどうかを別にして聞き手の印象を問う文になり得るのだが、「どんな」を使って問う(17)は、制限を設けない限り自分はそれについてあまりよく知らないというたてまえで話していることになる。

以上、「どう」が知識の有無に関わらず使用可能であるのは、「どう」の要求する答が「印象・感想」であるということによると考えられる。同じ経験をしていてもそれに対する「印象・感想」は千差万別である。そうした「印象・感想」はたとえ自分がある「印象・感想」を持っていたとしても、他の人とは異なるのであるから他の人の場合は「どう」であるかを問うことは不自然にはならない。一方、「どんな」の要求する答は「様子・状態」であり、それは誰が見てもあまり違いがない。したがって、話し手が聞き手よりも知っている事柄に対して「どんな」を使うと不自然になる。

そのことの傍証となるのが、「どう」と「どんな」の答の種類の差異である。それについては1. 2. で述べる。

1. 2. 答の種類

1. 2. 1. 文法的な制約

品詞で分けると通常「どう」は副詞、「どんな」は形容動詞あるいは連体詞とされる。そのため、その答にも疑問詞の接続関係の文法的な制約が及ぶ。

次の(20)(21)は、アパートを貸している大家さんから留学生に対しての問いである。

(20) 日本語の授業はどうですか。(8)として既出)

(21) 楽しいです。

(22) ? 楽しい授業です。

(20)の答としては通常(21)が考えられる。(22)はやや不適格ではあるものの、会話ではこれも発話される可能性がある。

他方、「どんな」の答としては(25)のような連体修飾の形での答が適格であるが、会話では(24)も発話される可能性がある。

(23) 日本語の授業はどんな授業ですか。(9)として既出)

(24) ? 楽しいです。

(25) 楽しい授業です。

タイからの留学生に向かってタイの首都バンコクについて問う(26)(29)も同様である。

(26) バンコクはどうですか。

(27) バンコクは活気に満ちています。

(28) ? バンコクは活気に満ちた町です。

(26)の答としては通常(27)のような叙述文が使用されるが、会話では(28)もあり得る。

(29) バンコクはどんな町ですか。

(30) ? バンコクは活気に満ちています。

(31) バンコクは活気に満ちた町です。

反対に、(29)の答としては通常(31)のような連体修飾の形が使用されるが、会話では(30)もあり得る。

以上は文法的な制約によるものである。

1. 2. 2. 意味的な制約

次に意味的な制約を見る。次の例は大家さんが留学生に問う場合である。

(32) 日本語の授業はどうですか。(8)(20)として既出)

(33) ×ビデオを見て会話を練習します。

(34) ×ビデオを見て会話を練習する授業です。

「どう」の答には、印象や感想を表現できる語句を含んだ文で、叙述文の形を用いた答が適格となる。

(35) 日本語の授業はどんな授業ですか。(9)(23)として既出)

(36) ? ビデオを見て会話を練習します。

(37) ビデオを見て会話を練習する授業です。

さらに、「どう」の答には、形容詞の叙述文のほかに(38)(39)(40)のような文も考えられる。

(38) 日常生活で役に立ちます。

(39) 日常生活で使える会話が覚えられます。

(40) 毎日覚えなければならないことがたくさんあります。

(41) ? いろいろな国からの留学生と話ができます。

(38)(39)(40)には「役に立つ」「覚えられる」「たくさん」などの語句が含まれている。これらの語句は形容詞ではないが、印象や感想を表現する際に使用することができる。一方、事実を叙述するだけの(42)(43)のような文は、「どう」の答としては不適格である。

(42) × 日常会話です。

(43) × テープを聞いたり話し合ったりして勉強します。

また、形容詞が含まれていてもそれが文中にあまり深く埋め込まれてしまうと、印象や感想が相手に伝わりにくくなるため、「どう」の答としては不自然になるようである。

(44) 楽しいから、休んだことはありません。

(45) ? 楽しく勉強しています。

(46) ? 楽しく勉強できる授業です。

(47) × 楽しくゲームをしながら、日常会話を覚える授業です。

(48) × 楽しい会話が覚えられる授業です。

以上から、「どう」の問いの答には印象や感想を表現することのできる語句が必要で、それらの語句が相手にわかりやすい形で含まれている必要があることがわかる。

他方、「どんな」の問い(35)の答としては(25)(31)のような連体修飾の形が適格であった。次の(49)(50)(51)も適格である。

(49) 会話の授業です。

(50) いろいろな国からの留学生と話ができる授業です。

(51) テープを聞いたり話し合ったりして勉強する授業です。

(49)(50)(51)からわかるように、答の連体修飾節の中に印象や感想を表現することのできる語句が含まれている必要はない。連体修飾節の中は、「授業」の様子や内容がわかる叙述文でもよく、形容詞文はもちろん名詞文でも動詞文でもかまわない。また、連体修飾の形でない答は形容詞が含まれる文であっても(52)(53)のように不適格な場合がある。

(52) ? 楽しいから、休んだことはありません。

(53) × 楽しく勉強しています。

「どう」による問の答(44)(45)が、形容詞を含むことによってそれぞれ適格、やや不適格であったことを考え合わせると、対照的である。

ここでほかの例も見てみる。次の(54)の答で(55)が不自然でないのは、印象・感想に当たる表現を含むからで、(56)が不自然であるのは事実だけを述べている文だからである。

(54) バンコクはどうか。(26)として既出)

(55) バンコクは今交通渋滞が社会問題になっています。

(56)×バンコクは1782年にラーマ1世が都としました。

同様に次の(57)の答では様子がわかればいいので、(58)(59)は適格である。

(57) バンコクはどんな町ですか。(29)として既出)

(58) バンコクは今交通渋滞が社会問題になっている町です。

(59) バンコクは1782年にラーマ1世が都とした町です。

このほか(64)のように、「どんな」は具体例を挙げて答えることもできる。

(60) きこのうの晩の料理はどうでしたか。

(61)×お刺身と鍋物でした。

(62) あっさりしていました。

(63) きこのうの晩はどんな料理でしたか。

(64) お刺身と鍋物でした。

(65) あっさりした料理でした。

2. 人にもものを勧める、意向を問う「どう」

「どう」は、人にもものを勧めたり意向を問うたりする場合にも使用される。その場合も話題についての話し手の知識の有無、答の意味的・文法的な制約は印象を問う場合と変わらない。

まず、話題についての話し手の知識の有無であるが、「どう」は持っている場合も持っていない場合も使うことができる。

(66) 今度の旅行はちょっと奮発して、沖縄はどうですか。

(67) クラス会の会場にあのレストランはどうですか。

沖縄に行ったことがある人もない人も(66)を発話することは可能である。また(67)だけでは話し手の知識の有無はわからないが、次の(68)も(69)もともに適格であることから、(64)は話し手の話題についての知識の有無に関わらず使用可能であることがわかる。

(68) わたしはまだ行ったことがないけれど、クラス会の会場にあのレストランはどうですか。

(69) この間行って良かったから、クラス会の会場にあのレストランはどうですか。

次に、答の意味的・文法的な制約について。

(70) この帽子なんかどうですか。よくお似合いですよ。

(71) いいけれど、ちょっと高いわね。

(72) これなら山に行くときにもかぶれそうね。

(73) 友だちも持っているわ。これ。

(70)の答には、会話では(71)(72)(73)のような答が考えられる。(71)は印象・感想を言っている。(72)は形容詞を含む答ではないものの、好意的な印象を言い表している。(73)

も同様に、「友だちも持っているから」「いや。」なのがあるいは「お揃いにしたいぐらい、いい。」ということである。やはり、印象・感想を言いたいことにかわりはない。

3. 問いを略して問う「どう」

「どう」はある程度答の範囲を限定しないと、範囲が広すぎて答えにくい。たとえば、人にいきなり(74)のように問われても何について答えればいいのかわからない。

(74) タイはどうですか。

かりに答に形容詞を使用するという制限を設けたとしても、次に挙げるように、気候、国民性、生活、食べ物などいろいろな答えが可能である。

(75) タイは今年で一番暑いです。

(76) タイは人々がたいへん信心深いです。

(77) タイはくだものが安いです。

(78) タイは辛い料理で有名です。

そこで、実際の会話では答の範囲を限定することになる。それには大まかに言って、次の三通りの場合がある。今まで1と2で見てきたのはこのうちの①である。ここでは②③に当たるものを見てみる。

①状況や話題の意味的な制約に頼って、答の範囲を限定する場合。

②話し手自らが話題を設定して、答の範囲を限定する場合。

③先に他の人に質問することによって話題を設定して、次の問いの答の範囲を限定する場合。

①と②の違いは話題の設定の有無であるが、その区別は固定的ではない。同じ文でも文脈によって①になったり②になったりする。ただし、印象・感想以外の答を要求する場合には、②③の形で問う必要がある。

(79)(80)(81)(82)は②の例である。

(79) 日本は8月が一年で一番暑いですが、タイはどうですか。

(80) 東京では10月になるともう泳げませんが、沖縄はどうですか。

(81) わたしの部屋にはクーラーがありません。佐藤さんの部屋はどうですか。

(82) 田中さんはあした休むそうです。佐藤さんはどうですか。

(83)(84)は③の例である。

(83) X: タイはいつが一年で一番暑いですか。

Y: 5月です。

X: フィジーはどうですか。

Z: 2月ごろです。

(84) X: Yさんは彼女にどんなプレゼントをあげるつもりですか。

Y: コーヒーカップをあげようと思っています。

X: Zさんはどうですか。

乙：わたしは友だちといっしょに音楽会の切符をあげるつもりです。

(83)(84)を見てもわかるように、この場合の「どう」には印象や感想を答える必要は全くない。

4. おわりに

以上から「どう」と「どんな」は次のように考えられる。

①「どう」は、話題の印象や感想を問う場合に使用される。したがって、話し手の話題についての知識の有無に関わらず使用可能である。

②「どんな」は、話題の様子や内容を問う場合に使用される。その際、話し手は話題について知識を持っていない場合に使用可能である。

③質問の文を略して問う「どう」は、①とは異なる答を要求することができる。

「どう」と「どんな」にはここで述べた他にもいろいろな用法があるが、ここでは触れなかった。今後の課題としたい。

注

ここで通常としたのは、あとで述べるように会話の中では「どう」の答に連体修飾の形を使って答えたり、「どんな」の答に連体修飾の形を使わないで答えたりする場合もあり得るからである。

参考文献

金田一春彦・池田弥三郎編1985 『学研国語大辞典』学習研究社

仙名怜子編1992 『技術研修のための日本語 1 改訂・試用版』国際協力事業団

神尾昭雄1990 『情報のなわ張り理論』大修館書店

言語経歴：1959年 東京都武蔵野市生まれ

0歳～18歳 武蔵野市 18歳～26歳 東京都国立市

26歳～28歳 台湾高雄市 28歳～ 国立市

(くちい のりこ・電気通信大学日本語補講師)